

人間環境大学岡崎キャンパス演習林

自然共生サイト登録への道



いのち・こころ・環境の未来を創造する大学

人間環境大学

UNIVERSITY OF HUMAN ENVIRONMENTS

環境科学部 フィールド生態学科 学科長 立脇 隆文

mail : t-tatewaki@uhe.ac.jp

人間環境大学とは

初代学長の竹市明弘と学園理事であった梅原 猛、心理学者である河合 隼雄が、京都大学大学院人間・環境学研究科の理念をもとに構想を練り、**2000年4月**に開学。



人間と環境 をキーワードとし、グローバル化、複雑化していく世界の現状を前に、新しい学びの形を作り上げてきました。

人間環境大学の構成

■ 岡崎キャンパス（愛知県）

心理学部

心理学科

「こころ」の働きと心理支援を学び、
現代社会の心の健康を担う



犯罪心理学科

多様化する現代社会の問題を
分析・解決する力を身につけ、
社会に貢献する



環境科学部

フィールド生態学科

生態系をみつめ、
人と自然の未来をまもる



環境データ サイエンス学科

データから環境問題を理解し
データにより解決に導く



大学院 人間環境学研究科（修士課程）

■ 大府キャンパス（愛知県）

看護学部



看護学科

看護の精鋭としての
高度な知識とスキルを身につける

大学院 看護学研究科

（博士前期課程・博士後期課程）

■ 松山キャンパス（愛媛県）

松山看護学部



看護学科

大学看護でしか学べない、
時代が求める高度な知識・技術を育む

大学院 松山看護学研究科

（博士前期課程・博士後期課程）

■ 松山道後キャンパス（愛媛県）

総合心理学部



総合心理学科 総合犯罪心理学科

Creative!
文系？ 系？ 心理学。

フィールド生態学科

生態学や野外調査の手法を学び、
自然共生社会を目指す



陸生哺乳類の管理

立脇隆文 准教授



昆虫の分類

久松定智 講師



鳥類の保全

岡久雄二 助教



淡水魚の保全

森岡伸介 教授



海生哺乳類の行動

西田美紀 准教授



海水魚の資源管理

中束明佳 助教



環境保全型農業

横家将納 教授



植物の分類

藤井伸二 准教授



森林の管理

江口則一 講師



土壌の分析

藤井芳一 教授



水質の分析

神本祐樹 教授

環境データサイエンス学科

人間社会と自然環境に関するデータを
収集分析し環境問題の解決を目指す



IT
による情報の可視化

薄井智貴 教授



AI
を使った社会課題解決

平山高嗣 教授



環境リスクの評価

谷地俊二 准教授



企業行動を分析

磯貝明 教授



環境経済学を考究

山根卓二 教授



国際協力を推進

小谷博光 講師



地域課題の発掘

谷川彩月 講師



多文化共生を考究

鬼谷美紀 助教

自然、社会、情報の専門家が所属！



演習林

実習や研究の場

演習林で行われている実習

標本作成



捕獲調査



センサス調査



アカネズミ



自動撮影調査



演習林で行われている実習

毎木調査



水質調査

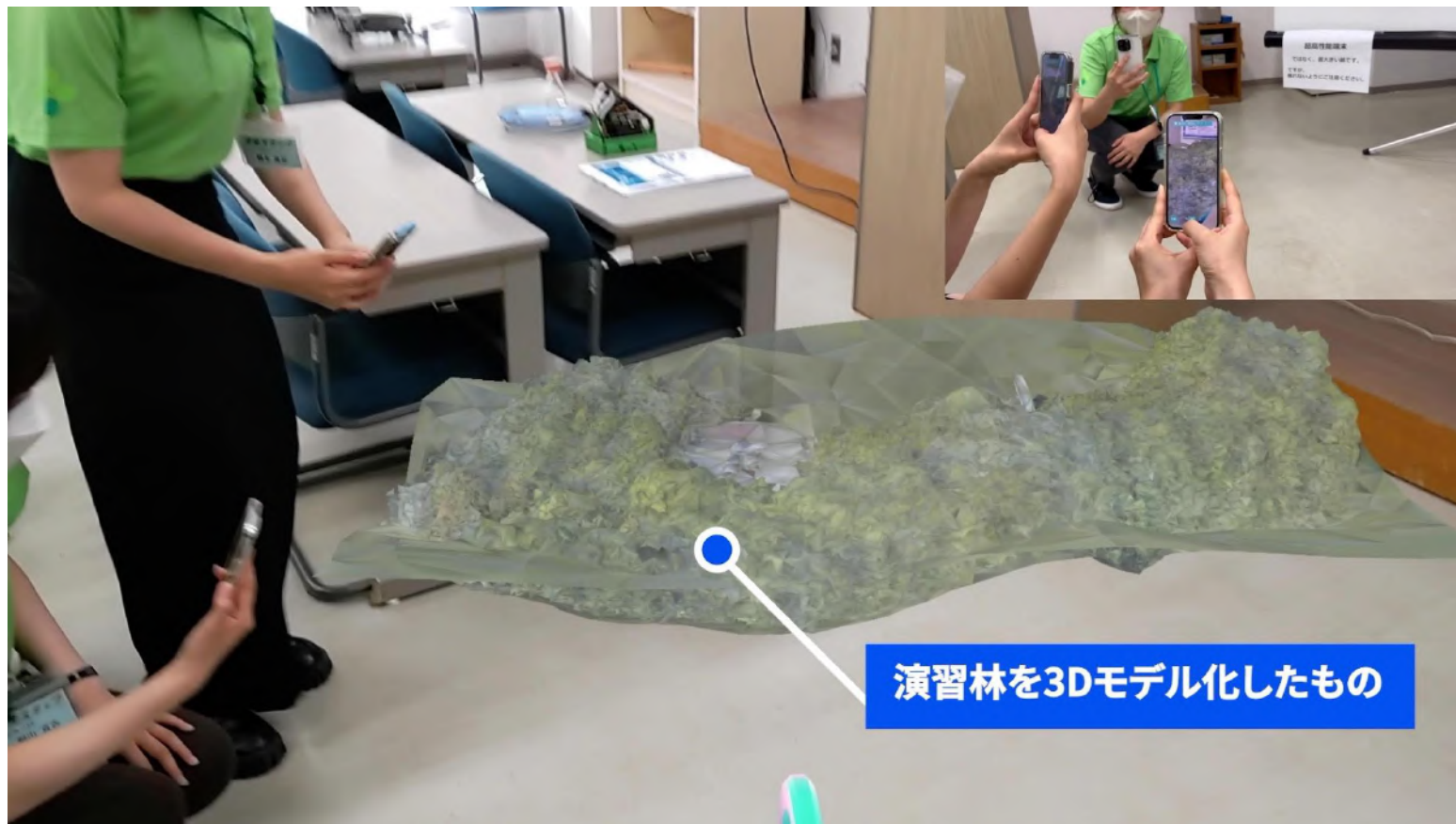


土壌の機能調査



演習林 × データサイエンス

MR（複合現実）を使った演習林のホログラム



MR技術を利用した今後の取り組み目標

- 任意の視点から演習林を調査
- 樹木の伐採など管理計画の可視化



人間環境大学の演習林の特徴

- ・ 普通の森林（在来種）
- ・ 一部の希少種が生息
- ・ 教育に使用（文化的サービス）

価値 (1) 公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

価値 (2) 原始的な自然生態系が存する場

価値 (3) 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

価値 (4) **生態系サービス**の提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

価値 (5) 伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

価値 (6) **希少な動植物種が生息生育**している場あるいは生息生育している可能性が高い場

価値 (7) 分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その**生態に特殊性のある種**が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

価値 (8) 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

価値 (9) 既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

生物多様性の価値



価値 (4)

価値 (6)

価値 (7)



決まった!

土地の確認



教員からは未知の世界・・・

動植物の一覧

『人間と環境』1 (2011)
Journal of Human Environmental Studies 1 (2011) ISSN 2185-8365

人間環境大学キャンパスおよび演習林の維管束植物目録

藤井 伸二

〈キーワード〉

維管束植物 植物相 人間環境大学

〈要旨〉

人間環境大学および演習林を調査し、355種類の自生または逸出の維管束植物を記録した。



教員の研究や実習等の結果を
まとめればクリアできそう

管理・モニタリング計画



毎年行われている実習や、
卒業研究でクリアできそう

法務局で登記簿確認



実は、**分筆だらけ**だった！

➡ 境界を探して山を歩くなど
多くの時間を割くことに

実は、**一部借地**だった！

➡ 内外の調整を試みたが、
結果として申請から除外した

地理情報システム（GIS）で境界確定



もっとも大変な作業だった・・・

自然共生サイト登録へ！



30by30

30by30とは

自然共生サイト



人間環境大学 岡崎キャンパス演習林

【場所・面積】 岡崎市、3.9ha

【申請者】 (学)河原学園 人間環境大学

 [詳細はこちら \[PDF: 1.2MB\]](#)

自然共生サイトとなったことを機に、

- ・ 演習林の**保全**に力を入れていきたい
- ・ 教育活動に**活用**していきたい
- ・ **広報**にも使っていきたい

ご清聴ありがとうございました



自然共生サイトへの登録が進み、よりいっそう自然と調和した世界になることを願っています。

【資料】環境省認定サイト一覧に公開されている情報

R5前期【No.37】 サイト名：人間環境大学 岡崎キャンパス演習林

申請者：学校法人河原学園 人間環境大学

場所・面積 愛知県岡崎市、3.8859ha

管理目的 生態学に関する実習や環境教育の場として、また地域の生物多様性保全に貢献することを目的とする。

サイト概要 愛知県岡崎市の南東に位置し、山の上に建設された人間環境大学岡崎キャンパスを取り巻く森林環境を活かした演習林である。演習林は、常緑広葉樹を主とし、針葉樹や落葉広葉樹、多様な草本や木本によって構成されている。また、演習林内には湧水による水の流れもあり、湿地帯も存在している。動物としては、演習林にはイノシシ、シカ、タヌキ、キツネ、サルといった大型から中型の哺乳類や、ムササビやリスなどの樹上で暮らす哺乳類が多く生息している。鳥類では、フクロウの生息も確認されている。また、天然記念物に指定されている種も含め、昆虫も多様な種の生息が確認されている。授業での実習科目や卒業研究での利用以外にも、クラブサークル活動による調査や、学生の自由な散策が行われている。人と自然とが共生する環境として維持管理している。

土地利用の変遷 元々は全域が山林と田であったが、昭和45年に当時の所有者により一部が宅地となり、平成4年に学校法人岡崎学園が所有することで学校用地となった。学校用地となった後は、敷地の中心部に校舎を建造したが、周辺環境はそのまま山林として残された。平成26年に所有者が学校法人河原学園に変わった後も、校舎を含め敷地内の改変はなく、演習林を含む大学キャンパスとして、環境の維持や保全管理を実施している。



サイト周辺の環境 愛知県岡崎市の中心部よりも中山間地域側に位置する。申請サイト周辺には、1 km圏内に国道1号線や東名高速道路、新東名高速道路といった幹線道路、名鉄本線が開通している。また、申請サイトより南西側には住宅地、南側には小学校がある。一方、西側からぐるりと北側や南東側にかけて広葉樹やスギを中心とした人工林といった様々な樹種の山林が広がる。さらに北側にはゴルフ練習場跡地が隣接するが、山林を含め放棄された状態となっている。北西側約2 km程には、愛知県と岡崎市の指定天然記念物である北山湿地がある。

アピールポイント 校舎と隣接した演習林のため、実習などで演習林内に人が入ることも多く、また生物が校舎付近に巣を作るなど、人と生物が常に密接に関係合っている。その中において、大学での生態学に関する学びを活かし、日頃より生物の生息状況調査や植生調査によって、人と自然との共生を目指した管理計画を実施し、環境保全を進めている。また、演習林内の山野や湿地部といった多様な環境によって、フクロウや水生昆虫といった特徴的な環境でしか生息できない生物の保全にも注力している。大学がJWMS認定プログラム制度への参加校であり、また、ビオトープ管理士資格の一部免除認定校であることから、生態系保全の人材育成に向けた学内での実地研修の場としても活用している。

【資料】環境省認定サイト一覧に公開されている情報

R5前期【No.37】 サイト名：人間環境大学 岡崎キャンパス演習林

申請者：学校法人河原学園 人間環境大学

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

大学キャンパス内にある校舎と隣接した演習林で、学生への教育の場として、敷地全域を調査研究フィールドとしている。また、湧水による湿地帯や、植林しないままの植生を一体的に維持管理し、動物の自由な往来や、希少種の生育環境も維持している。これにより、多様な哺乳類、鳥類、爬虫類、昆虫類の生息が確認されている。

【主な植生】

山林部の主な植生として、樹木は高木・亜高木・低木の常緑性および落葉性の樹種により構成し、草本はシダ類である。湿地部の主な植生は、樹木は小高木・低木の落葉性の樹種により構成し、草本はシダ類である。

【確認された主な動植物】

以下のとおり、それぞれの生息地に在来種や特徴的な種の生息が確認されている。

山林部：

- 植物 ツブラジイ（学名：Castanopsis cuspidate Schottky, 成木）
- 植物 ソヨゴ（学名：Ilex pedunculosa, 成木）
- 昆虫 ミカワオサムシ（学名：Carabus arrowianus arrowianus, 成体）
- 昆虫 センチコガネ（学名：Geotrupes laevistriatus, 成体）
- 昆虫 ヨツボシモンシテムシ（学名：Nicrophorus quadripunctatus, 成体）
- 昆虫 オオゴキブリ（学名：Panesthia angustipennis spadica, 成体）
- 等

湿地部：

- 植物 サクラバハノキ（学名：Alnus trabeculosa Hand.-Mazz, 成木）
- 昆虫 水生昆虫等



写真の撮影年月：2023年4月
写真の説明：申請サイト西側の演習林と校舎に繋がる階段



写真の撮影年月：2023年4月
写真の説明：申請サイト東側の演習林内の湿地²

【資料】環境省認定サイト一覧に公開されている情報

R5前期【No.37】サイト名：人間環境大学 岡崎キャンパス演習林

申請者：学校法人河原学園 人間環境大学

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

演習林内の湧水を起源とする小川からの水の流入や、土地の形状により形成された湿地がある。陸地部と浅い水深の水辺がある。湿地周辺の植生としては、樹木は高木・亜高木・低木の常緑性および落葉性の樹種により構成し、草本はシダ類である。湿地部の主な植生は、樹木は小高木・低木の落葉性の樹種により構成し、草本はシダ類である。大雨が降ると広く冠水する場所である。

【確認された希少種】

2022年4月から2023年4月までに実施した調査において、希少な水生生物種が確認されている。



写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：申請サイト内の湿地部の概況



写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：申請サイト内の湿地部の概況

【資料】環境省認定サイト一覧に公開されている情報

R5前期【No.37】 サイト名：人間環境大学 岡崎キャンパス演習林

申請者：学校法人河原学園 人間環境大学

生物多様性の価値

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

【場の概況】

演習林内の湧水を起源とする小川からの水の流入や、土地の形状により形成された湿地がある。陸地部と浅い水深の水辺がある。湿地周辺の植生としては、樹木は高木・亜高木・低木の常緑性および落葉性の樹種により構成し、草本はシダ類である。湿地部の主な植生は、樹木は小高木・低木の落葉性の樹種により構成し、草本はシダ類である。大雨が降ると広く冠水する場所である。

【確認された分布限定等種】

2022年4月から2023年4月までに実施した調査において、希少な水生昆虫が確認されている。



写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：申請サイト内の湿地部の概況



写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：申請サイト内の湿地部の概況

【資料】環境省認定サイト一覧に公開されている情報

R5前期【No.37】サイト名：人間環境大学 岡崎キャンパス演習林

申請者：学校法人河原学園 人間環境大学

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 管理として、山林部において、週に1回程度で見回りを行い、保安管理のために必要であれば樹木の伐採を行う。基本的には、人の手を加えずに自然的な遷移とする。➤ 管理として、湿地部において、月に1度程度水尻の清掃を行うことで水流を適切なものとし、湿地に生息する水生昆虫の生息に適した環境を維持する。➤ モニタリングとして、全域において、卒業研究の調査地としている。毎年1年間を通して、植物、大型哺乳類、鳥類、爬虫類、昆虫類の生息状況を、学生の卒業研究計画に沿って調査する。➤ モニタリングとして、小川および湿地において、卒業研究の調査地としている。1年間を通して、水量や水質の調査を、学生の卒業研究計画に沿って調査する。	<p>【モニタリング対象】</p> <p>植物 大型哺乳類 鳥類 爬虫類 昆虫類 水量や水質</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>演習林全域</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>植物：樹種の同定および樹高や胸高直径の計測 大型哺乳類：定点カメラによる種ごとの個体数調査 鳥類：撮影機による観測および種同定 爬虫類：ラインセンサスによる個体数調査 昆虫類：トラップによる種ごとの個体数調査 水量や水質：採水による分析</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>1月～12月頃</p> <p>【実施体制】</p> <p>人間環境大学人間環境学部および環境科学部の学生 (研究フィールドとして活用)</p>